

PART

# 3

## 人材編

40 資格取得者の在籍状況【複数回答】

---

42 従業員の年間給与額

---

44 月間平均残業時間

---

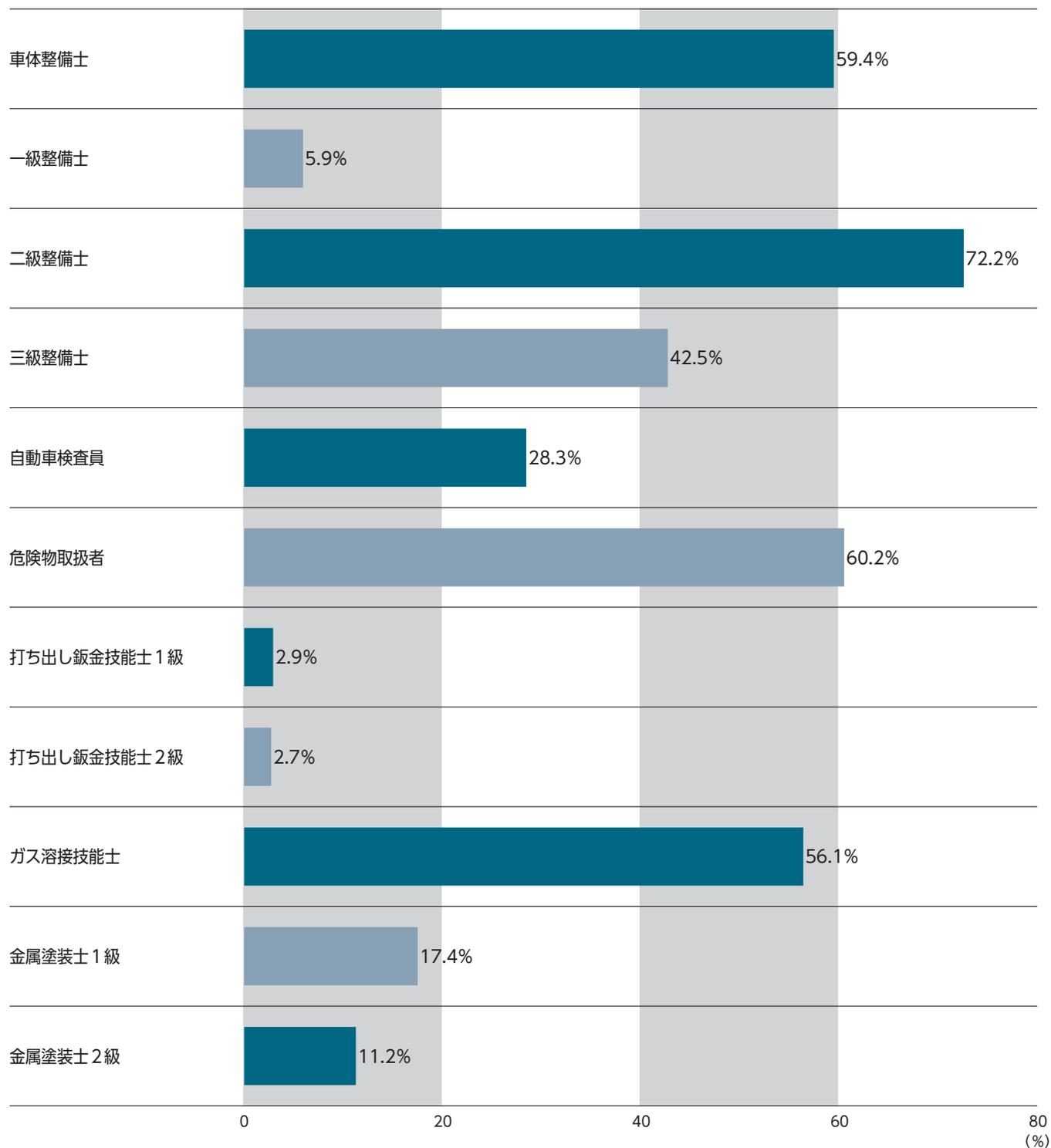
46 直近1年間における従業員の増減と過不足

---

48 外国人の雇用

---

## 資格取得者の在籍状況【複数回答】



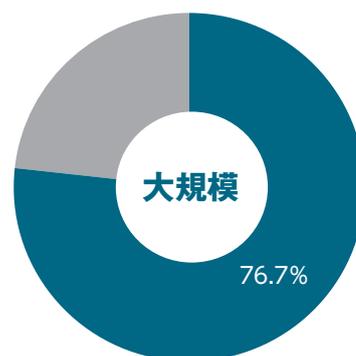
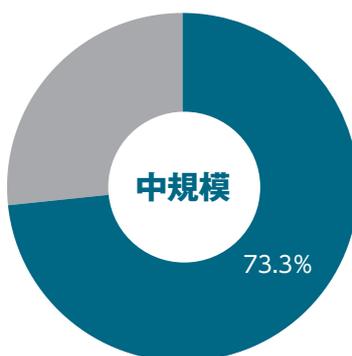
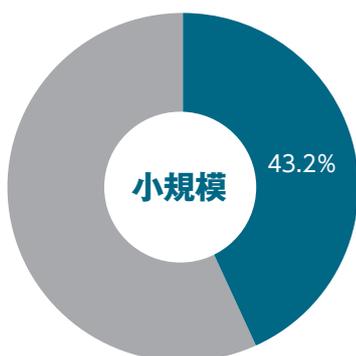
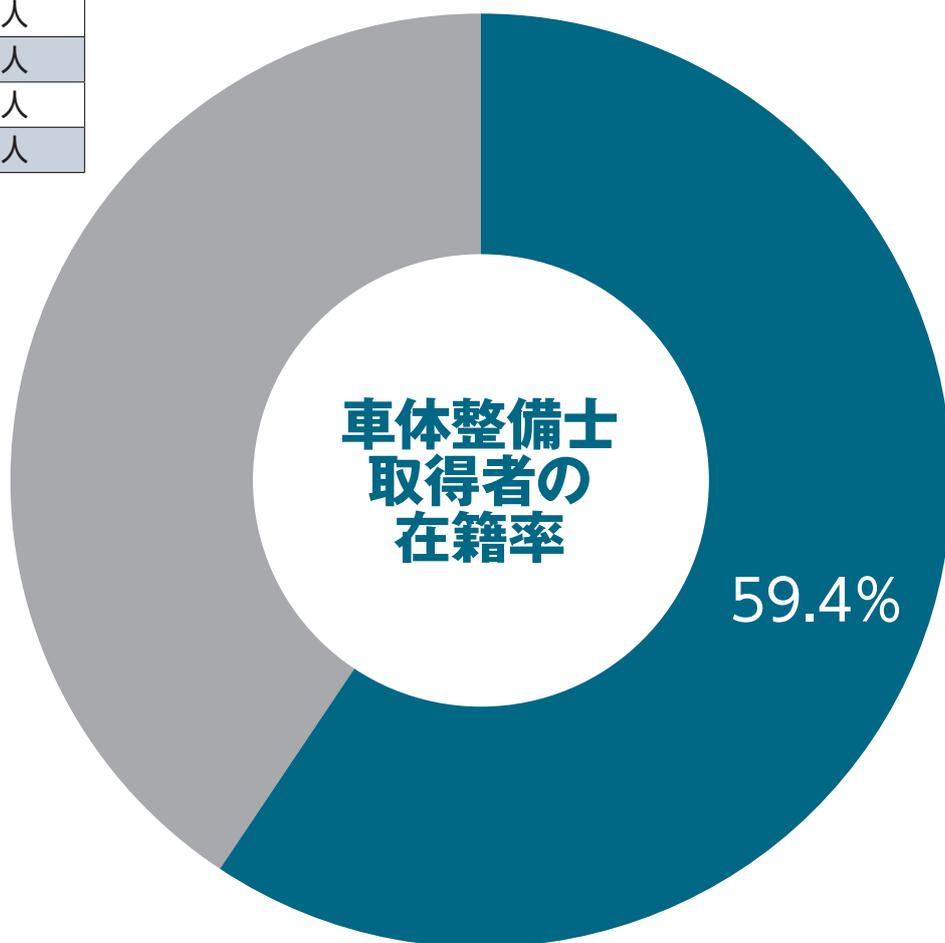
車体修理工場及び関連業種に関する各種個人資格の取得状況を示した。最も取得率が高かったのは二級整備士で、72.2%に上った。

車体整備関連の国家資格である車体

整備士資格の取得率は59.4%。しかし工場規模別に見ると、中規模以上の工場では取得率が7割を超えているのに対し、小規模工場では43.2%と半数を下回った。

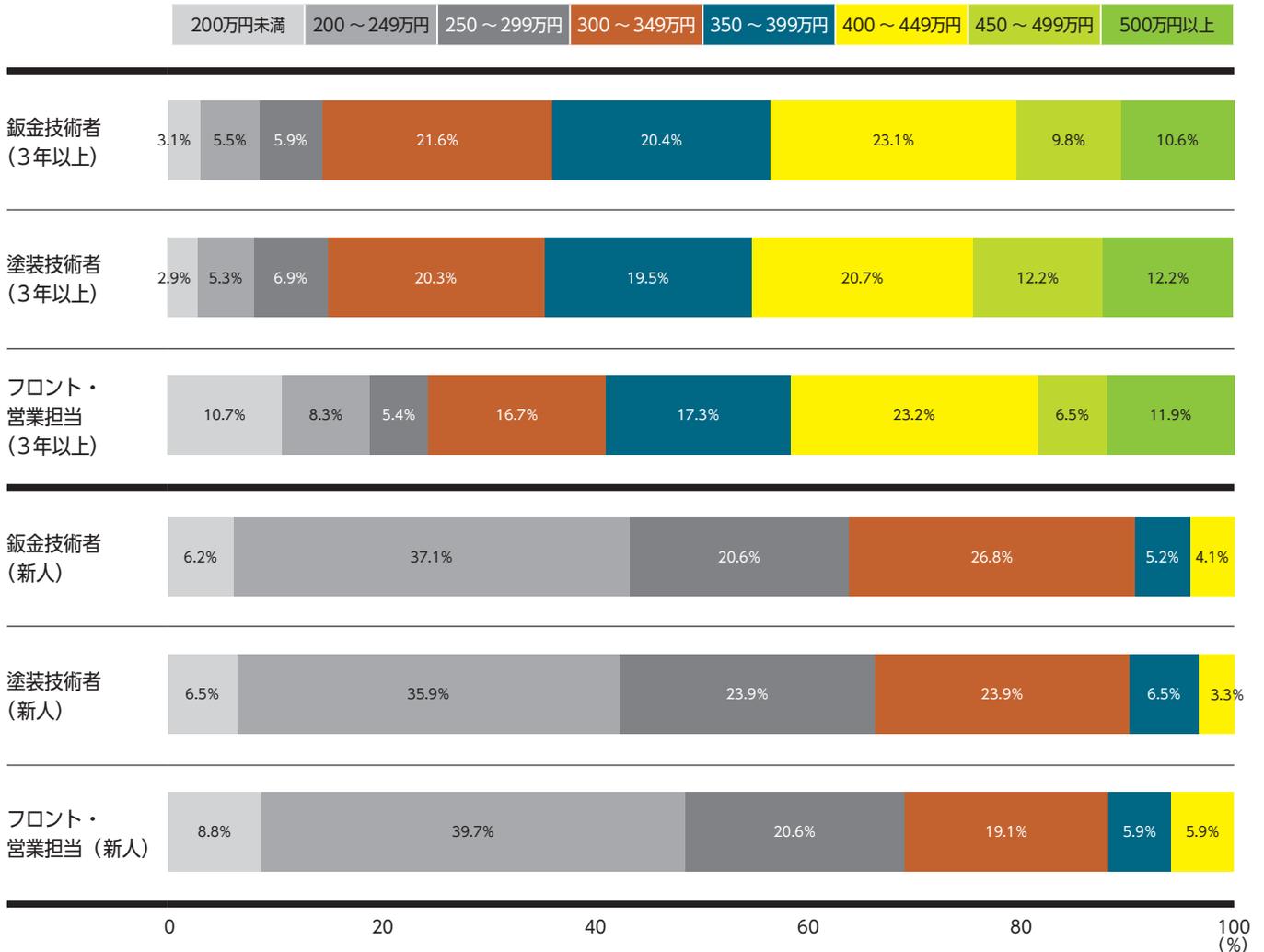
人数に換算すると1社当たり1.2人の車体整備士が在籍している計算になるが、複数人の車体整備士が在籍する中規模以上の工場が平均を押し上げていると考えられる。

	取得者数	1社当たりの取得者数
全体	459人	1.2人
小規模	114人	0.6人
中規模	147人	1.4人
大規模	198人	2.3人



# PART3

## 従業員の年間給与額



		最小値	平均	最高値
钣金技術者	3年以上	100万円	366.5万円	600万円
	新人(未経験者)	150万円	261.9万円	418万円
塗装技術者	3年以上	100万円	373.6万円	900万円
	新人(未経験者)	150万円	260.0万円	400万円
フロント・営業担当	3年以上	100万円	346.8万円	800万円
	新人(未経験者)	120万円	258.0万円	414万円

※回答に月額とのとり違えなど判断しづらい数字は、換算もしくは集計外とした。

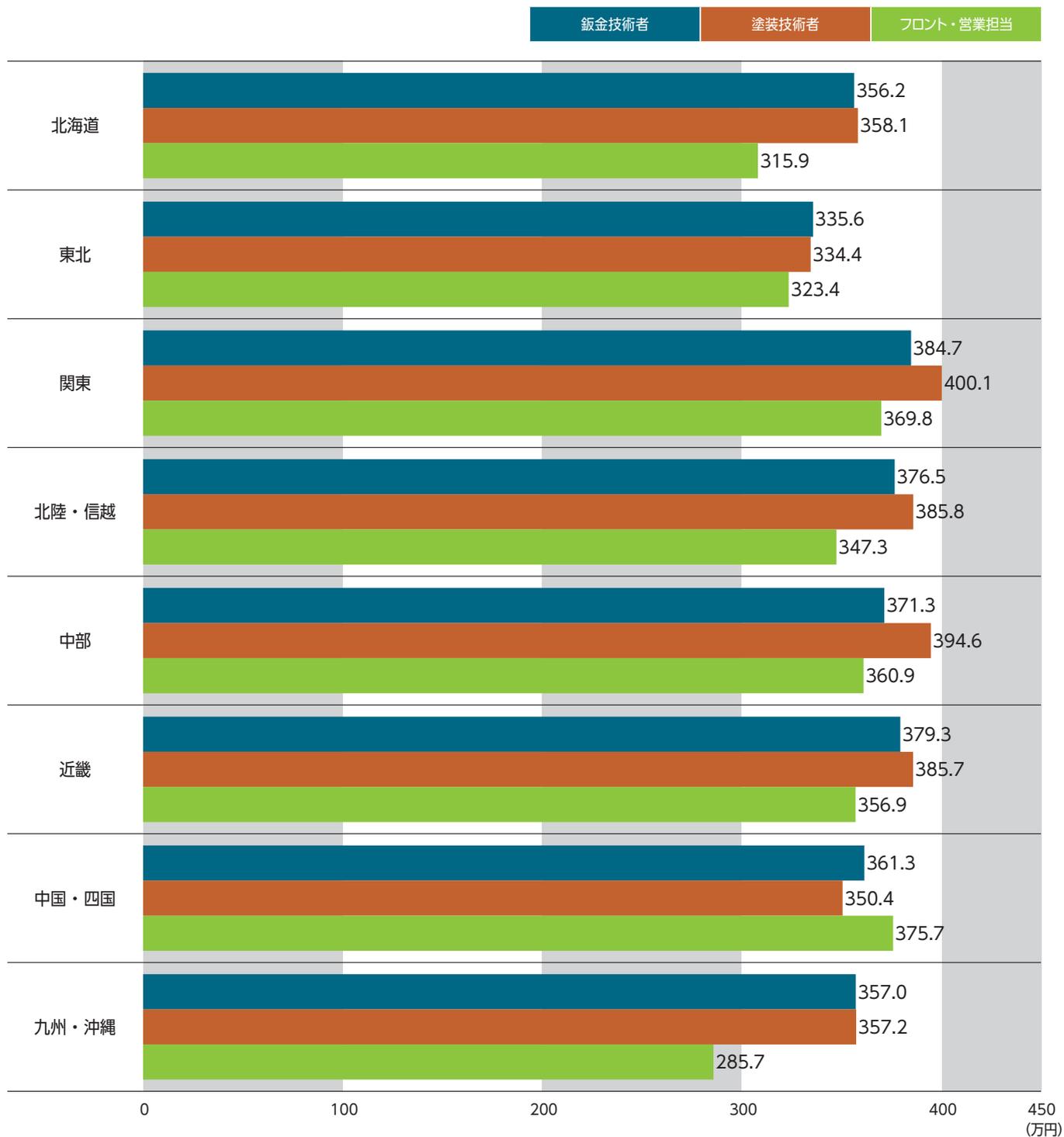
钣金技術者、塗装技術者、フロント・営業担当ごとに、新人と経験3年以上の従業員に分けて年収をたずねた。

特徴的なのは、新人ではどの職種においても大きな差は生じなかったが、

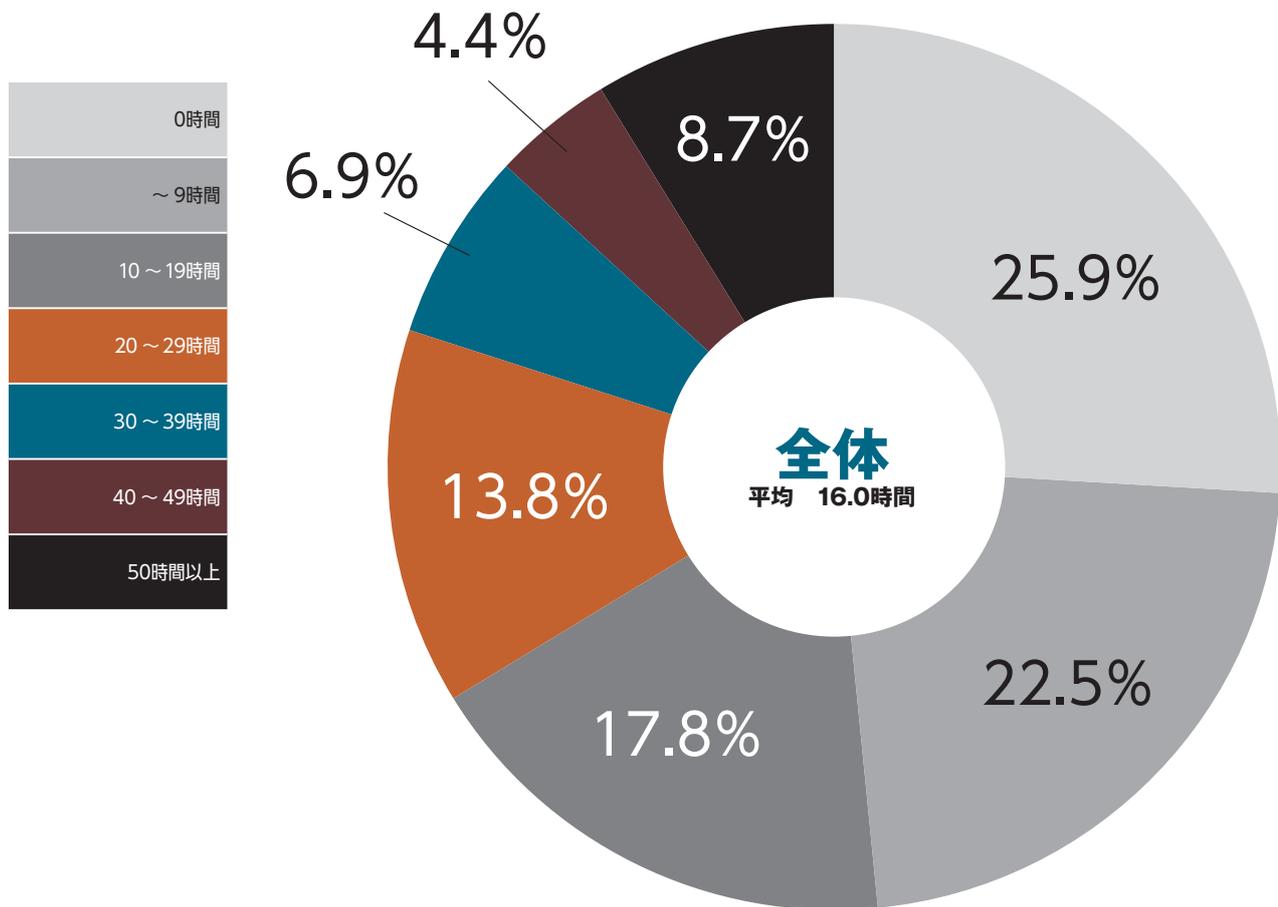
経験者になると二極化が進むということである。钣金・塗装技術者ともに経験3年を超えると1割以上が年収500万円以上と答えているが、年収200万円以下の層も少なからず散見され

る。フロント・営業担当に関しては、10.7%が年収200万円未満だった。

その背景としては、シニア層が週2・3日勤務したり、子育て世代の時短勤務といった事例が考えられる。



## 月間平均残業時間



## 残業時間対策

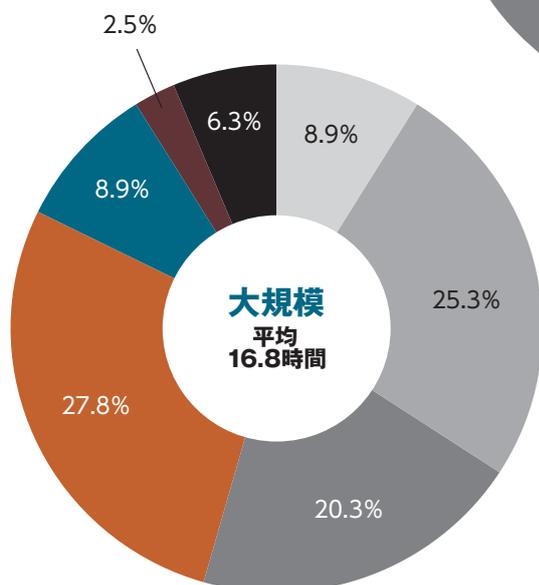
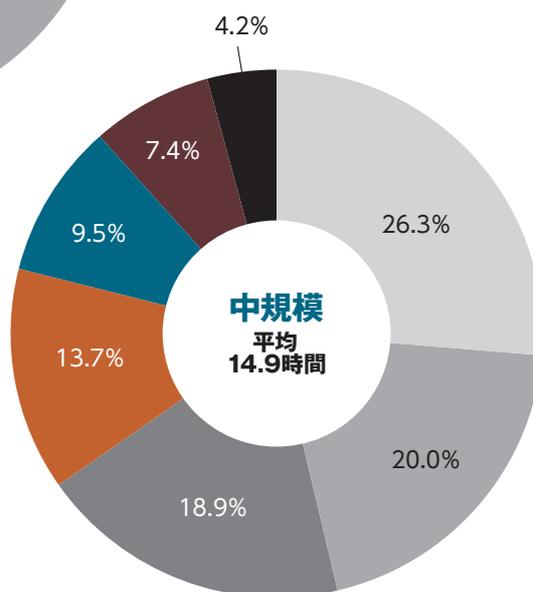
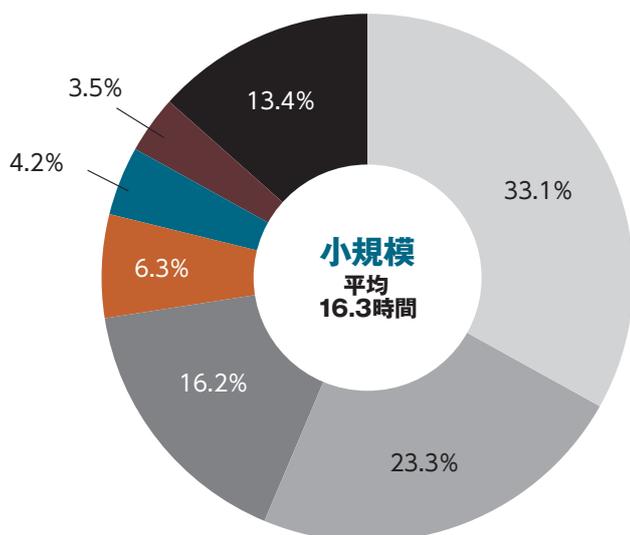
- 慌てずに丁寧に作業する（クレーム、失敗をしない）
- 納車・引き取りをできるかぎりお客様に行ってもらおうよう要望
- 完成検査の徹底でやり直しをなくす努力をしている
- 作業効率の良い材料・工具の導入
- ミーティングを朝・昼・夕と3回実施し情報共有を密にする
- 年間休日表の配布と有給消化と工程表作成報告
- 設備投資とコミュニケーション能力強化
- 早出勤の禁止、時間外勤務報告制度の導入
- 工程管理の徹底とノー残業デーの設定
- 発注者との相談→契約→納品→領収をワンストップで行う。また、保険については損保会社の責任の下で対応してもらい、余計な経費や時間を掛けていない

月間平均残業時間は16時間で、比率にすると「0時間」と答えた層が最多だった。工場規模別に見ると、平均残業時間が最も短かったのは中規模工場で、「0時間」と答えた割合が最も

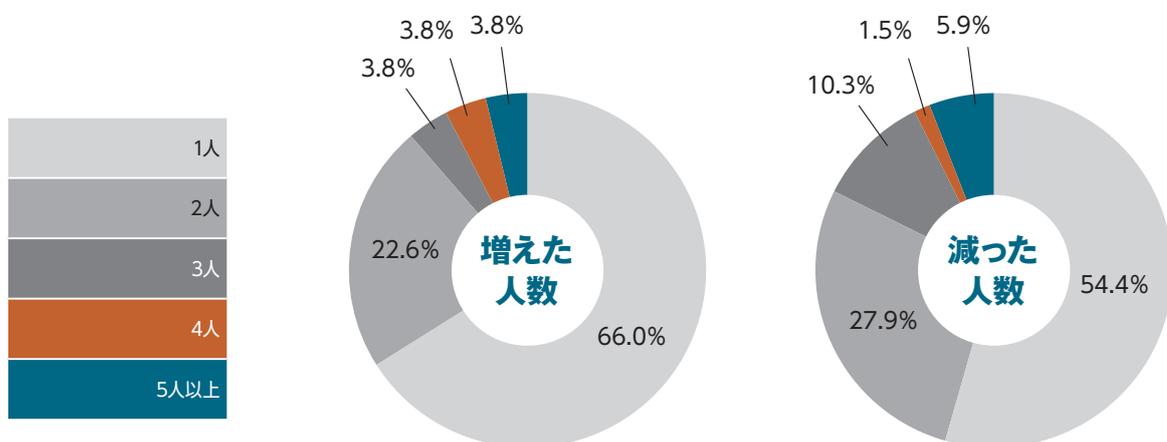
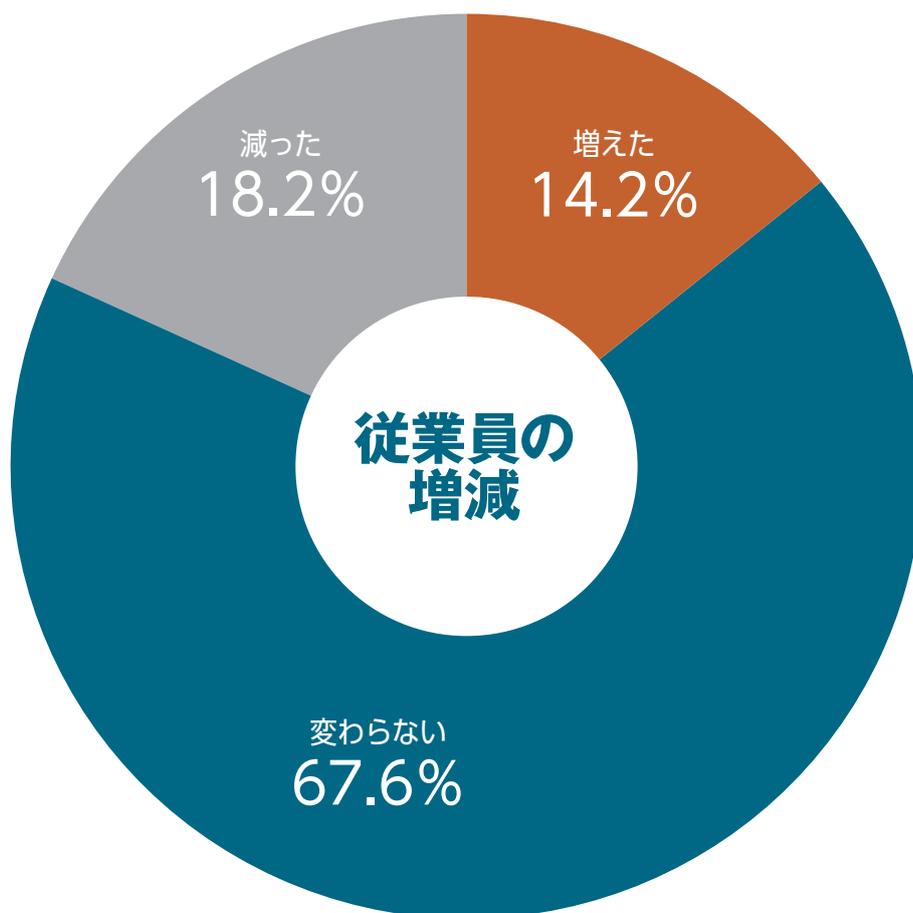
多かったのは小規模工場だった。大規模工場のボリュームゾーンは「0.1～9時間」から「20～29時間」の間で占有率は73.4%だった。

小規模工場では、絶対的な仕事量が

少なく残業が発生しない工場と、一定の仕事量はあるものの設備投資や人材確保が追い付かず、長時間労働が慢性化している工場に二極化していると推察される。



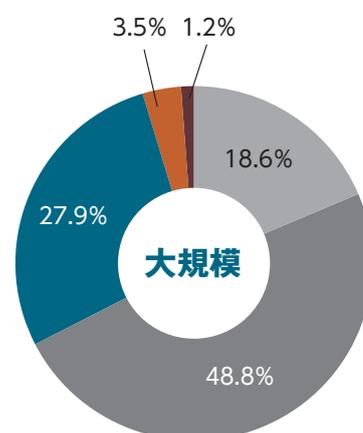
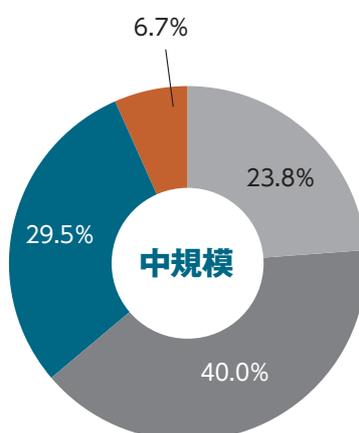
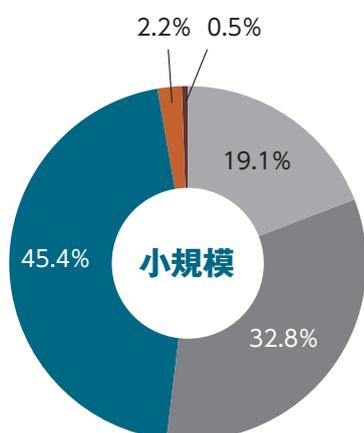
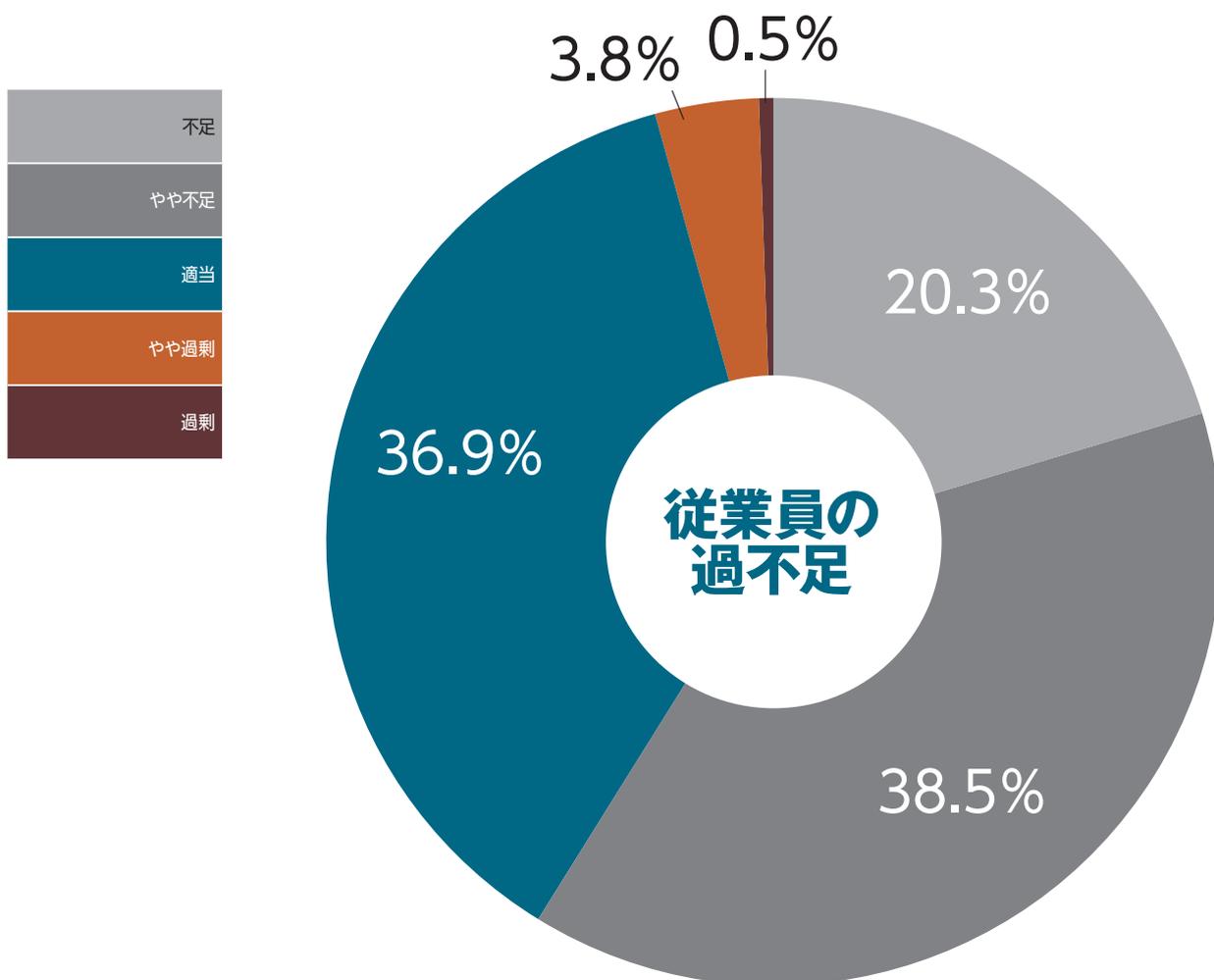
## 直近1年間における従業員の増減と過不足



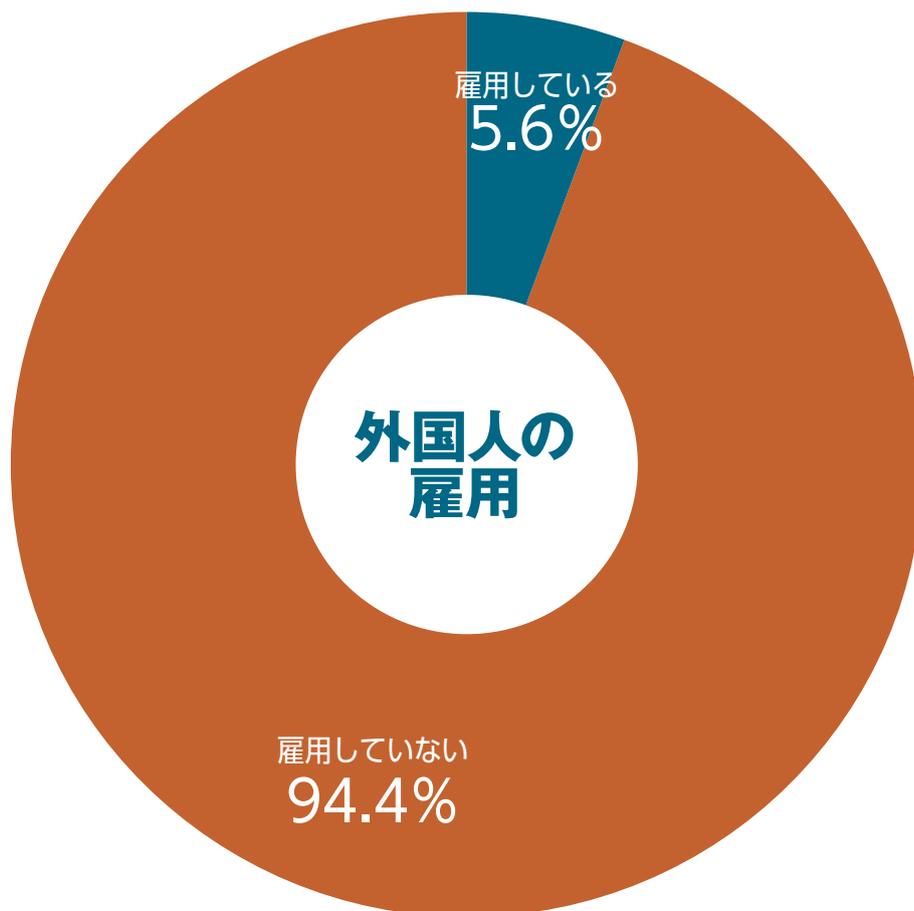
従業員の増減について、67.6%が直近1年間で増減はないと回答。増減があった工場も多くが「1人」と答えしており、人員の大幅な増減はないものと見られる。

一方、従業員の充足状況についてたずねると、半数以上の工場で人員が不足していることが分かった。特に中規模以上の工場は7割近くが「不足」もしくは「やや不足」の状態にあった。

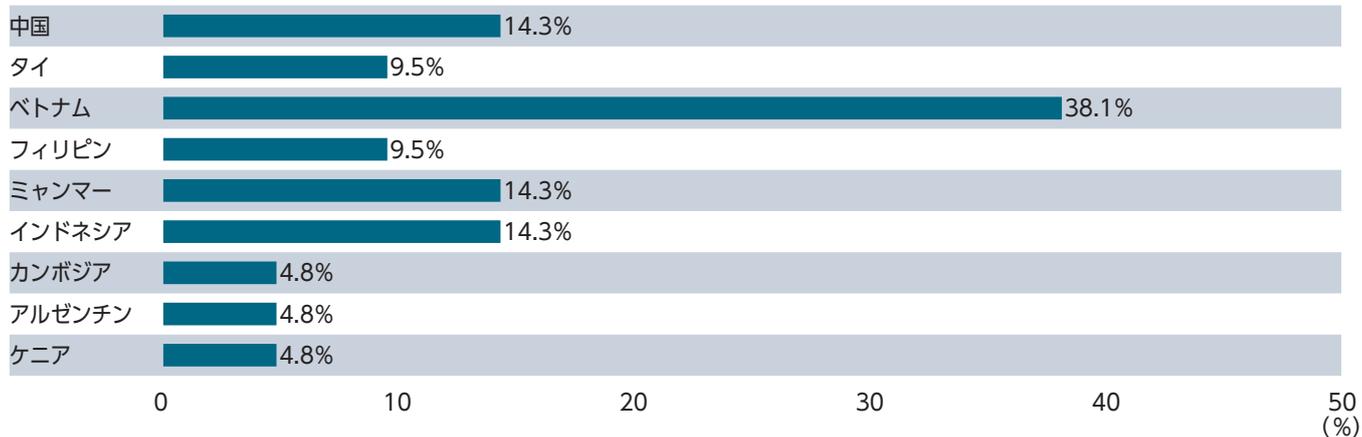
ディーラーなどの内製工場、複数の元請けや保険会社と提携している工場などで人材不足が深刻化していることがうかがえた。



## 外国人の雇用



### 雇用する外国人の国籍



昨今、話題を呼んでいる外国人労働者の雇用状況についてたずねた。現状では全体の5.6%にとどまるものの、今後の雇用については10.2%が「これから検討を始める」と回答しており、

変化の兆しが見え始めている。その傾向は工場規模が大きくなるほど顕著に現れており、大規模工場では2割近くが外国人の雇用を検討していることが分かる。

労働者の国籍を見ると、ベトナムが突出している。近年は東南アジアの賃金水準が上昇していることから、南米やアフリカ諸国への注目も高まっているようだ。

